「いわての復興教育推進事業（震災学習列車活用スクール）」成果報告書

学校名：洋野町立向田小学校

Ⅰ　事業の概要（地域の実情含む）

向田小学校は，洋野町の中でも大野地区の山側に位置し，東日本大震災による被災はほとんどなかった。そのため，沿岸部の被災について実感を伴った理解に至っていない児童が多い。学校では自然災害による被害や災害時の対処方法，被災地や被災者への関わりへの意識を高めようと「いわての復興教育」プログラムを活用して復興教育を進めている。

また，平成２７年度に「防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業」の指定校となったことで防災教育に力を入れており，毎年非常時体験を取り入れた学習を行っている。

このような経緯を踏まえ，今年度は「いわての復興教育推進事業（震災学習列車活用スクール）」を活用し，東日本大震災についてのより具体的な理解と復興に対する自己の関り方についての考えを深めさせたいと考える。

Ⅱ　取組の概要

１　ねらい

- 震災学習列車での学習を通して，東日本大震災の被害の大きさや復興にかける人々の努力への理解を深める。
- 震災遺構の見学や体験活動を通して，沿岸部の現状を知る。
- これらの学習活動から，自分が復興とどのように関わっていくか自分なりの考えをもつことができる。

（２）取組の内容

ア　事前学習

イ　震災学習列車乗車体験

ウ　震災遺構見学

エ　事後学習

（３）具体的な取組

〔利用区間〕北リアス線（久慈駅～田野畑駅）

〔参加人数〕全校児童 23 名引率９名　計 32 名

ア　事前学習

全校集会で東日本大震災について被害の状況と復興の様子について確かめる学習を行った。その後，各学級で副読本等を活用して，学年や児童の実態に応じて東日本大震災の被害の様子や復興に向けての人々の努力について理解を深める活動を行った。

【全校集会：東日本大震災について学ぶ】

イ　震災学習列車の活用

①震災学習列車乗車体験

震災学習列車に乗車し，久慈駅から田野畑駅まで移動する中で東日本大震災について学習を進めた。ガイドによる写真を提示しての説明を聞いたり，車窓から実際に現地の様子を見学したりするなどして理解を深めた。

【震災学習列車：ガイドの説明を聞く】

【震災学習列車：車窓より現地を見学】

【震災学習列車：模性者に用いを駆ける】

② 震災遺構見学

震災遺構「明戸海岸防潮堤」を見学した。鉄筋コンクリートで頑丈に作られた防潮堤が，アメ細工のように曲がっている様子や根こそぎ削り取られた様子から，改めて地震と津波の破壊力のすさまじさを感じ取るとともに，自然災害の恐ろしさを忘れてはいけないという教訓を学んだ。

【震災遺構見学：明戸海岸防潮堤】

ウ 事後学習

①学習のまとめ

東日本大震災の被害の様子や復興に向けての人々の努力について，学習して分かったことや感想などを学年の実態に応じてまとめた。

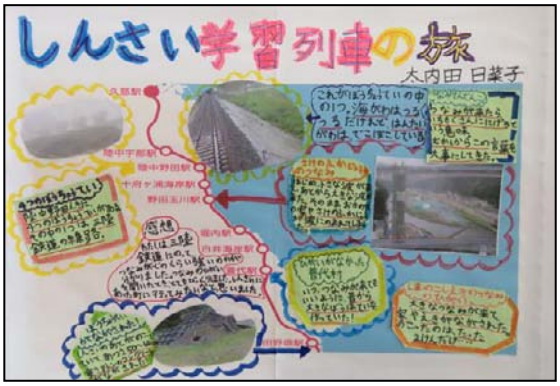
【２年生】

分かったことや感想を三角スタンドにまとめた。

三角スタンド形式で前面・背面，裏面に作文や写真をレイアウトし，表示面を変えることができる。

【３・４年生】

１枚のパネルに地図を配置し，そこに分かったことや考えたこと，写真等を配置し，まとめた。



【５・６年生】

震災学習列車の学習を通して感じたことや考えたことを個人新聞にまとめた。

②作品交流

大野地区の小中学校５校の学習の成果を交換して掲示し，交流した。

Ⅲ 取組の成果と課題

１ 成果

（１） 震災学習列車に乗り，実際に被害があった場所やその後の復興の様子を目の当たりにし，それぞれの学年なりに震災の被害や人々の努力を感じ取ることができた。

（２） 東日本大震災や復興について体験をとおして学んだことにより，今後自分がどのように関わっていくかを深く考えることができた。

２ 課題

（１） 見学や体験をとおして学ぶ学習を今後も継続していくために，地域・家庭・各関係諸機関と連携した取組をすること。

（２） 体験活動と教科や領域などとの関連を明らかにし，系統的・計画的に復興教育を推進すること。